

入院患者の転倒・転落発生率と損傷発生率

入院されている患者様に転倒・転落が発生した割合を示しています。入院中は環境の変化に加え、病気や運動機能の低下によって思いがけない転倒・転落事故が起こることは少なくありません。転倒・転落を完全に予防することは困難ですが、その発生を可能な限り防ぐためにリスクを把握し、予防に取り組む必要があります。

【当院の活動】

医療安全管理室では日々の各部署報告をもとに情報を分析し、各部署における医療事故対策に関する諸問題を検討し、適切かつ効果的な対応策を講じることを目的としています。また、入院される全患者様を対象に、転倒・転落の危険性を知る為にチェック表をご記入いただき、入院生活についてご相談を行っています。

1) 転倒・転落発生率

対象病棟： 一般病棟、回復期病棟、地域包括ケア病棟

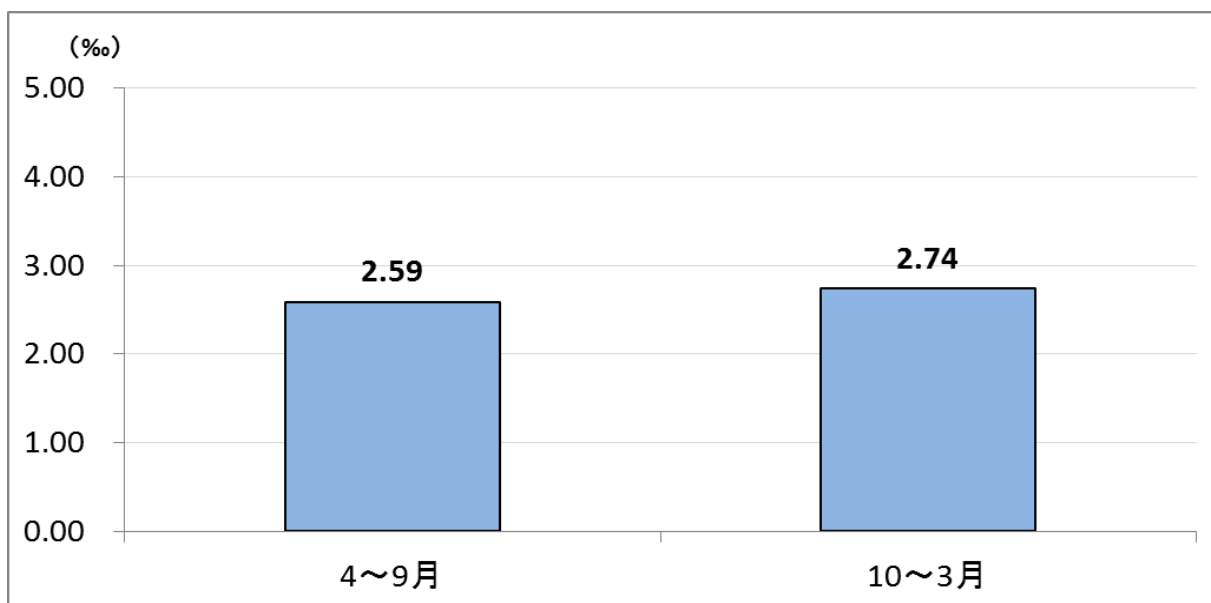
計算式：
$$\frac{\text{分子) 入院患者に発生した転倒・転落の件数}}{\text{分母) 1カ月の在院患者延べ人数}}$$

対象期間： 6カ月

データ件数:

	2022年度	
	4~9月	10~3月
分子	88	98
分母	33,968	35,815
発生率(‰)	2.59	2.74

※転倒・転落指標の単位は計算式に1,000をかけた‰(パーミル)となります



2) 転倒・転落損傷率(レベル3b以上)

対象病棟： 一般病棟、回復期病棟、地域包括ケア病棟

計算式：

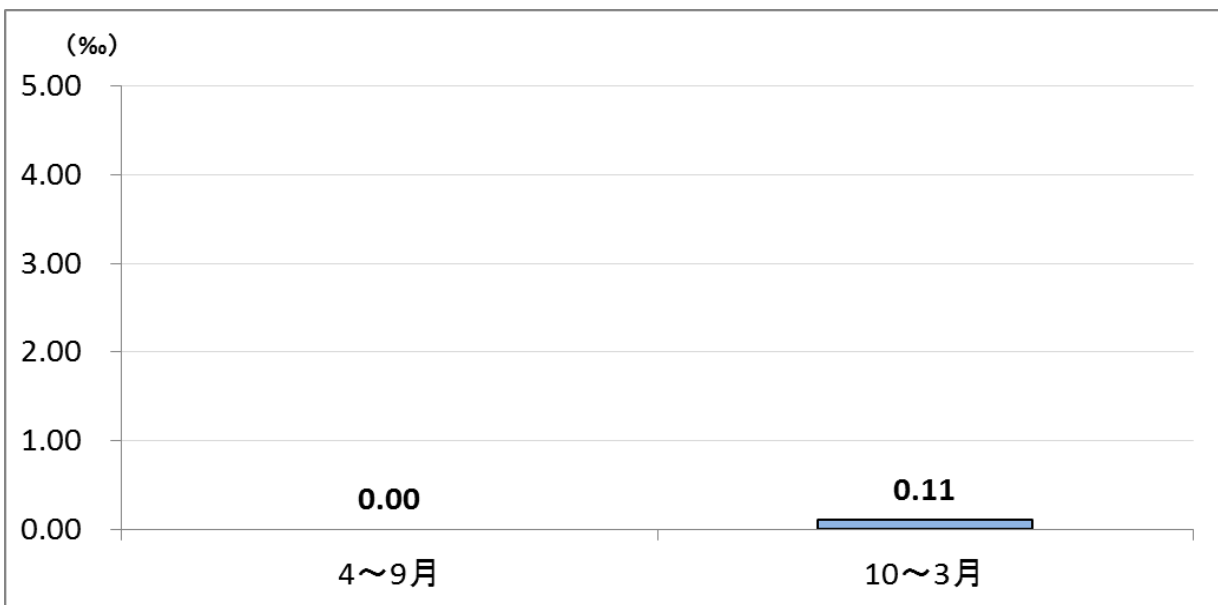
$$\frac{\text{分子) 入院患者に発生した転倒・転落により損傷した件数 (レベル3b以上)※}}{\text{分母) 1カ月の在院患者延べ人数}}$$

対象期間： 6カ月

データ件数:

	2022年度	
	4～9月	10～3月
分子	0	4
分母	33,968	35,815
損傷率(%)	0.00	0.11

※転倒・転落指標の単位は計算式に1,000をかけた‰(パーミル)となります



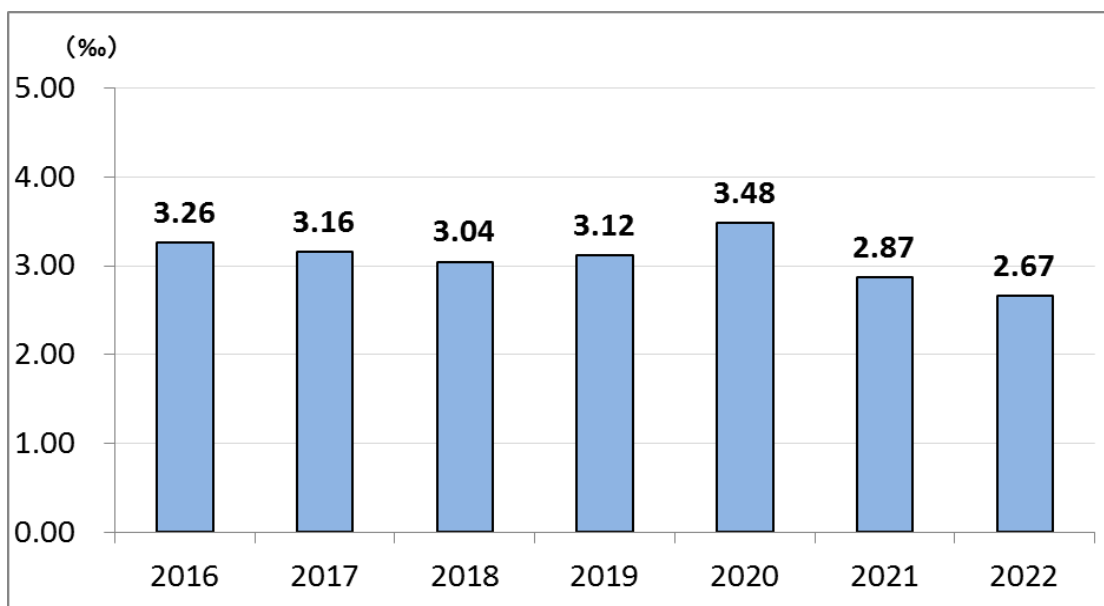
レベル	重症度	患者の状態
1	なし	患者に損傷はなかった
2	軽度	観察の強化や検査の必要性が生じた
3a	中軽度	新たな治療や処置が必要となった (打撲、擦過傷等が見られ、CT等の検査が必要となった)
3b	中軽度	新たな治療や処置が必要となった (裂傷、骨折等が見られ、縫合処置や手術が必要となった)
4	重度	生命に影響を及ぼす後遺症が残った
5	死亡	転倒・転落による損傷の結果、死亡に至った

●年度別比較

1) 転棟・転落発生率

データ件数:

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
分子	247	252	242	246	243	208	186
分母	75,671	79,734	79,493	78,819	69,750	72,578	69,783
発生率(‰)	3.26	3.16	3.04	3.12	3.48	2.87	2.67



2) 転棟・転落損傷率(レベル3b以上)

データ件数:

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
分子	2	3	3	10	7	10	4
分母	75,671	79,734	79,493	78,819	69,750	72,578	69,783
発生率(‰)	0.03	0.04	0.04	0.13	0.10	0.14	0.06

